

水産研究部企画調整事業

坂本 進・田村勇司

事業の目的

農林水産研究指導センター水産研究部の企画調整機能を充実・強化するため、「企画調整」、「広報広聴」及び「研修」に係る業務を行った。

1. 企画調整事業

水産研究部の管理担当、企画指導担当、栽培資源チーム、養殖環境チーム及び浅海・内水面グループの浅海チーム、内水面チームの業務や予算等を調整し、組織の円滑な運営と調査・研究の効率的な推進を図る。

また、農林水産研究指導センター本部をはじめ、関連機関との連絡調整、情報交換等を行い、研究課題等を企画、立案する。

2. 広報広聴事業

各種のメディアを通じて、調査・研究結果を積極的に公表・伝達する広報活動と、漁業現場のニーズを的確に把握して業務に反映させるための広聴活動を行い、水産情報基地としての機能の充実に努める。

3. 研修事業

国内外からの研修や視察に積極的に対応し、開かれた研究機関としての機能の強化を図る。また、研究員の資質向上を目的に研修会を開催する。

事業の方法

1. 企画調整事業

1) 大分県水産研究企画調整会議

漁業者ニーズに迅速、的確に対応し、効率的な調査・研究活動を推進することにより、本県水産業の振興発展を図るため、大分県水産研究企画調整会議設置要綱に基づき会議を運営した。また、センター本部が主催する農林水産研究指導センター企画指導担当者会議（メンバー：企画指導担当総括）及びセンター部長会議（メンバー：部長、グループ長）に参加した。

2) 研究予算調整

限られた予算を有効に活用し、効率的な研究・開発を推進するため、水産研究部と浅海・内水面グループの研究予算等の調整と運用を行った。

3) 大分県水産研究推進検討委員会（所内評価）

研究課題の推進に際し、必要な助言、評価及び検討を行うことにより、研究レベルの向上と効率化を図るため、設置要綱に基づき委員会を運営した。

4) 大分県農林水産部試験研究外部評価委員会 専門部会

本県水産業の振興発展に有益な試験研究を進めるため、大分県農林水産部試験研究推進本部設置要綱並びに試験研究評価実施要領に基づき、学識経験者等の外部委員から構成される水産研究部外部評価委員会専門部会を開催した。

2. 広報広聴事業

1) 広報

A. 研究発表会

水産研究部の研究者の資質向上、情報交換を目的として、大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会を開催した。さらに、最新の試験研究成果を関係機関へ紹介して現場での活用を促進することを目的にセンター本部が開催した研究成果発表会で水産関係の試験研究成果を発表した。

B. 刊行物

a) 事業報告書

刊行物投稿規約に基づき、平成 21 年度事業について、本場、浅海研究所及び内水面研究所分を 1 冊の事業報告書にして発行した。

b) 広報紙 AQUA-NEWS

広く県内外の水産関係者等に研究成果等の情報を発信するため、広報紙 AQUA-NEWS を編集、発行した。

C. インターネットによる水産業情報の発信

水産研究部のホームページ（アドレス：<http://www.mfs.pref.oita.jp/>）において、水温情報、漁況海況予報、緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。

2) 広聴

A. 水産研究・普及連絡会議

研究者と水産業普及指導員との連携を強化し、漁業現場の情報や要望を研究課題に反映させるため、水産研究・普及連絡会議を開催した。

B. 県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議

水産研究部に対する漁協や市町村の要望や意見を聴取して研究課題に反映させるとともに、水産研究部の最新研究情報を伝達するため、県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議を開催した。

3. 研修事業

1) 視察・研修受入

開かれた研究機関として機能することを目的として、視察、見学者への説明や案内等を行った。

また、必要に応じ、部門ごとの研修、国外からの現地視察や実習等にも対応した。

2) 研修

研究員の資質向上と研究機能の強化を目的に、今年度は全研究職員を対象にマーケティング研修を開催した。

事業の結果

1. 企画調整事業

1) 大分県水産研究企画調整会議

原則として月に1回開催し、各部所の行事、予算及び研究課題等の連絡調整を行い、水産研究部としての方針を決定した。

2) 研究予算調整

本部策定の予算編成方針及び水産研究部が定めた予算編成方針に基づき、各担当・チームから要求があった試験研究及び施設整備等の予算を取りまとめた。

3) 大分県水産研究推進検討委員会（所内評価）

2010年6月21日、6月22日に委員会による部・グループのヒアリングを開催し、評価、助言、指導を行った。

4) 大分県農林水産部試験研究外部評価委員会 専門部会

2010年7月13日に水産研究部外部評価委員会専門部会を開催し、新規4課題について技術的なアドバイスを意見を受けた（表1）。

2. 広報広聴事業

1) 広報

A. 研究発表会

2010年12月6日、7日に大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会を開催し、水産研究部8課題、浅海・内水面グループ3課題の研究発表があった（表2）。

また、2011年3月2日に開催された農林水産関係機関研究成果発表会で1課題の研究発表と2課題のポスター発表を行った（表3）。

B. 刊行物

a) 事業報告書

本場、浅海研究所及び内水面研究所の平成21年度の事業報告を1冊にして編集、発行した。

b) 広報紙 AQUA-NEWS

本年度は、7月に第31号、1月に第32号を編集、発行し、県内外の関係機関に配布した。

C. インターネットによる水産業情報の発信

水産研究部のホームページにおいて、水温情報、漁況海況速報、予報並びに緊急赤潮情報等の各種情報の提供を行った。

2) 広聴

A. 水産研究・普及連絡会議

2010年5月12日（水産研究部）、5月28日（浅海・内水面グループ）に連絡会議を開催した。

普及指導員から要望が出された事項については、各チーム・担当において対応した。

B. 県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議

2010年6月8日に北海道沿岸地域、6月10日に佐伯市沿岸地域、7月6日に豊前海沿岸地域、7月15日に東国東・別府湾沿岸地域を対象としてそれぞれ会議を開催した。

表4に会議で報告した研究情報を示す。

3. 研修事業

1) 視察・研修受入

小学生の団体見学を中心に、多くの視察、見学及び現地実習等に対応した。

表5に視察受入実績を示す。

また、赤潮、魚病、水産加工等各担当ごとのテーマ別研修も実施した。

2) 研修

2010年11月2日に浅海・内水面グループ、11月4日に水産研究部で、2題の講演（表6）と水産メーカー、漁業管理課流通担当との意見交換を行った。

表 1 大分県農林水産部試験研究（水産研究部）外部評価委員会名簿

所 属	役 職	氏 名	備 考
九州大学大学院農学研究院	教 授	松山 倫也	学識経験者
(独) 水産総合研究センター 瀬戸内海区水産研究所	業務推進部長	岸田 達	学識経験者
(独) 水産総合研究センター 養殖研究所 上浦栽培技術開発センター	センター長	尾形 博	学識経験者

表 2 大分県水産関係研究者連絡協議会研究発表会の発表課題

発 表 課 題 名	発 表 者
豊予海峡周辺海域におけるマアジの成熟と卵の分布特性	栽培資源チーム 研究員 西山 雅人
豊後水道南部における定置網漁業の漁獲特性の統計的考察	栽培資源チーム 研究員 行平 真也
高ヘマトクリット値を伴うブリ 1 歳魚の異常死	養殖環境チーム 主任研究員 木本 圭輔
県産カボスを利用した養殖ブリの肉質改善	養殖環境チーム 主幹研究員 大屋 寛
関あじ・関さば出荷技術向上の試み	中部振興局 主 任 都留久美子
アワビ放流手法の改善に向けて	栽培資源チーム 研究員 白樫 真
クルマエビ囲い網適正目合い試験 ～全長 30mm のクルマエビは 100 径の網目を抜け出すのか～	南部振興局 技 師 山田 英俊
猪串湾におけるイワガキ養殖と貝毒対策	養殖環境チーム 主任研究員 宮村 和良
佐伯湾に鉄はどれくらいあるか！ 2010 年夏季における溶存態鉄の動向	養殖環境チーム 主幹研究員 岩野 英樹
ドジョウ種苗生産における初期餌料	内水面チーム 主任研究員 内海 訓弘
アサリ種苗生産の現状	浅海チーム 主任研究員 江頭 潤一
中～大型水槽を用いたカワハギ種苗量産の取り組み	栽培資源チーム 研究員 中里 礼大
アカナマコ種苗生産の課題と取り組み	浅海チーム 研究員 片野晋二郎

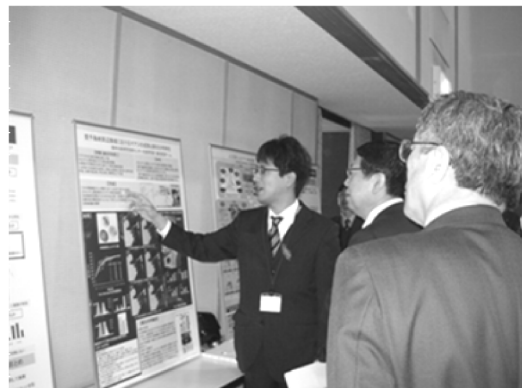
(注) 表は発表順である。連名発表は筆頭者のみ記載した。

表 3 農林水産関係研究発表会の水産研究部の発表課題等

課 題 名	発 表 者 等
(研究発表) 県産カボスを利用した養殖ブリの肉質改善	養殖環境チーム 主幹研究員 大屋 寛
(ポスター発表) 豊予海峡周辺におけるマアジの成熟と卵の分布特性 人工石原によるアサリ着底効果	栽培資源チーム 研究員 西山 雅人 浅海チーム 研究員 三代 和樹



外部評価委員会専門部会 (2010 年 7 月 13 日)



農林水産関係研究発表会 (ポスター発表)

表4 県漁協支店運営委員長・市町村水産担当課長会議等の開催実績と報告した研究情報

開催日 (場所)	対象地域	研究情報・報告者
2010年6月8日 (臼杵総合庁舎)	北海部海域沿岸	「大分県沿岸における藻場の現状」 栽培資源チーム 主幹研究員 景平 真明
		「豊後水道北部海域で発生するカレニア・ミキモトイ赤潮と 新たな現場監視の取組み」 養殖環境チーム 主任研究員 宮村 和良
2010年6月10日 (水産研究部)	佐伯市沿岸	「シラス魚群マップの運用について」 栽培資源チーム 研究員 行平 真也
		「大分県南部海域における貝毒被害対策とその実態結果」 養殖環境チーム 主任研究員 宮村 和良
2010年7月6日 (浅海・内水面グループ)	豊前海沿岸	「赤潮・貝毒調査研究」 浅海チーム 主任研究員 原 朋之
		「小型ガザミの保護技術開発に関する研究」 浅海チーム 主任研究員 畔地 和久
		「アサリの資源回復に関する研究」 浅海チーム 主幹研究員(TL) 樋下 雄一
2010年7月15日 (日出総合庁舎)	東国東・別府 湾沿岸	「ナマコ種苗生産の現状と他県の状況」 浅海チーム 研究員 片野晋二郎
		「栽培対象種(クルマエビ、マコガレイ)の放流効果調査」 浅海チーム 主任研究員 畔地 和久
		「ヒジキに関する最近の調査・研究から」 浅海チーム 主幹研究員 伊藤 龍星

表5 視察等受入実績

区分	水産研究部		浅海チーム		内水面チーム	
	件数	人数(人)	件数	人数(人)	件数	人数(人)
視察・見学	21	320	5	99	53	230
うち、国外※	3	9	0	0	3	43

※マレーシア、ブラジル、ガボン、韓国、中国

(注) 文書等により依頼があったもので、概数である。

表6 水産マーケティング研修の講演課題

講演課題名	講演者
水産マーケット活動と流通現場が試験研究機関に望むこと	おおいたブランド推進課 消費流通班 主査 三浦 慎一
大分県の水産物流通について	漁業管理課 団体流通班 課長補佐(総括) 末吉 隆